

OB会費納入者名簿

会報9号印刷原稿完成以降に納入いただいた方です。ご協力のほど有り難うございました。

夫婦会員は1名のみを記載

() 内の数値は、納入いただいた年数

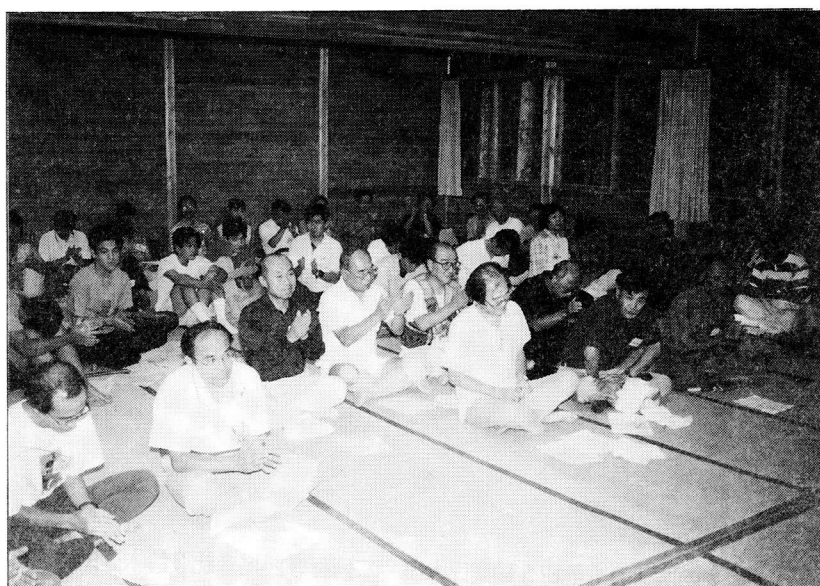
(+) は既納分があり、今回追加された年数

(&) は規定分より多いため、右の数字を次年度の会費に充当いたします。

会計年度中に現役期間のある方の場合、以下のようにお願いしています。

36期…4年分 37期…3年分 38期…2年分 39期…1年分

桜井 登 (5)	富田 征也 (5)	高見よ志子 (5)	田丸 稔 (5)
宮本 則夫 (5)	小谷 太平 (5)	高水間淑子 (5)	高田 和守 (5)
向 幸子 (5)	赤地 賢一 (5)	河辺 憲次 (5)	菅田富士雄 (5)
田中 茂 (5)	伊藤 直和 (5)	井上 敏明 (+2.5)	山田 容子 (+2.5)
小間 八郎 (5 & 5)	松岡 創 (5)	佐倉 正樹 (+3)	館 幸士郎 (5)
横山 寿人 (+4)	滝本 民夫 (+1)	竹内 和彦 (+3)	黒岩 達夫 (5)
石本 一鶴 (+1)	細田 晴美 (5)	辻村 善徳 (+4)	難波 利行 (+3)
荻生 一美 (+3)	萩野 生男 (5)	宮崎 俊郎 (5)	新谷 孝夫 (5)
西村かおり (5)	小島 裕子 (5)	蒲原新太郎 (4 & 1)	新倉 崇之 (4 & 1)
藤牧 康子 (+2)	若山 悟 (+2)	佐川 貴久 (2)	友野 克利 (2)
西馬 由岳 (2)	橋本 征治 (2)	三浦 永士 (2)	小西 陽介 (1)
西田 秀輝 (1)	岩倉里恵子 (1)	川本 幸世 (1)	



4 0周年記念事業を 終えて一言

実行委員長 18期 椿川 利弘

一応実行委員長という肩書でしたので、総会の司会が無事できるか、キャンプファイヤーの点火がうまくいくか、記念山行の日は晴れるかなどなど、それぞれが終わるまで心配でした。そういう意味では、滞りなく終了できて、大変うれしく思っています。これもひとえに、他の実行委員や現役の皆さんの協力によるものです。

しかし、自分が参加者の立場になって考えてみると、年齢の離れたOBと現役に話し易い場はあったか、食事はおいしかったか、山行の後の懇親会の方がよかったのではないか、同伴の子供達は楽しかったかなど、反省点を数えあげたらキリがありません。

次回については、総会でも意見のあったように、場所や時期も含めて世話をするOBがやりやすいようにやるしかないようです。しかし、今後ますますOBが増えることや全国に散らばっていることを考えると、総会、記念山行、懇親会（現役との親睦を含めて）を一時にやるメリットとデメリットを考え、どこかにポイント

を絞っての開催という考え方も、また一案であるように思います。

とにかく今は終わってホッとしている反面、写真の懐かしい顔を見て、みんなもっと山の話をするばよかったと思っています。

参加された皆さんどうもありがとうございました。

（编者注；この原稿は、実行委員長の最後の仕事とばかり、きわめてスムーズに送っていただきました。その後に大出さんの事故がございました。

OB

記念山行では少数派の、同じBコースであり、ともに土木科の出身でもあり、今回の行事を通して彼が一番よく話したOBが大出さんだったそうです。まさかこんなことになるなんて…と40周年の印象が塗り変わった面持ちでした。

事故を知る前に原稿を寄せていただいた方の分を含め、ここに大出様のご冥福を祈らせていただきます。）



前列左より 6池田 5稲葉 12大出 二列目 3西尾 3北 3鈴木 3田村 あと略

創立40周年記念行事を終えて

主将 41期 佐藤 豪一郎

今年はワンダーフォーゲル部創立40周年ということで、記念行事も無事終わることが出来、正直ホッとしています。

最初は、仕事が少ないという安易な気持ちで引き受けた主将職でしたが、今年は節目の年に当たり、貧乏籤を引いてしまったかなと思っていました。しかし、終わってみれば達成感でいっぱい、やってよかったと思っています。

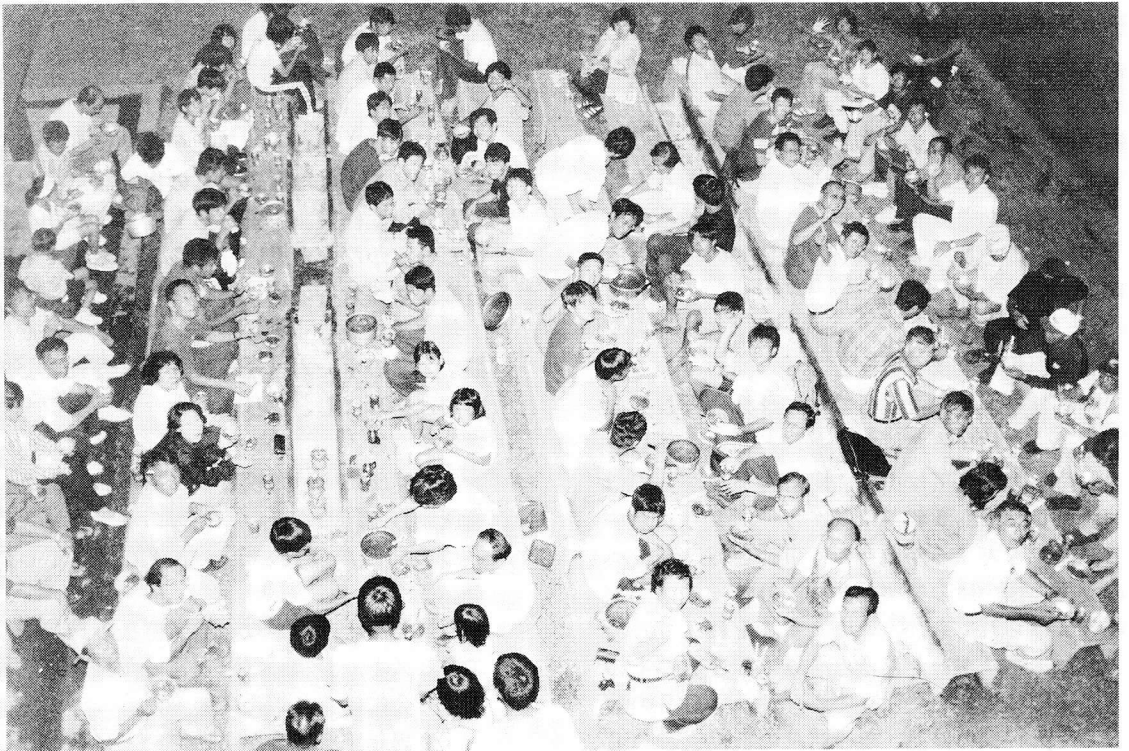
今まで、現役からすれば、OB会といえは少し煙たい存在であり、OB会からすれば、口を出したいけれど口を出し過ぎても、というような曖昧な関係であったと思います。実際私自身も、1、2年時の高三郎登山整備において、なるべくOBとは深く関わりたくないと思ってい

ました。そんな中での記念行事であったので、果たしてうまくいくのだろうかと考えたりもしました。

普段接する機会のない現役とOBで、ほとんど初対面であったわけですが、それぞれの交流という意味においては大成功であったと思います。私も現役も、数多くのOBの方達と話をすることが出来、今までのOBのイメージとは違ったOBを知ることが出来、とても有意義でした。

一部、芸において、少々危険なものがありましたこと、現役を代表してお詫び申し上げます。

次回45周年に再びお会い出来ることを楽しみにしております。



壮観の夕食風景。カレーの匂いがしてから「肉を忘れたー」と買いに走る場面も…。ワンゲルらしい!?

OB会の新世話人として

新OB会会長 15期 奥名 正啓

クラブが発足して40年。40年前といえば私が小学校1年生の頃でしょう。当時のことなどあまり記憶にはありませんが、テレビなどの電化製品は一つもありませんでしたし、家の中を見回してもあるものは和ダンスとちゃぶ台ぐらいのものでした（我が家が貧乏という説もある）。そんな時代に我がワンゲルが産声をあげていたことを思うと気が遠くなりそうな昔のことのようにも思えます。今では家の中にはものがあふれ、ゴミの日には大きなゴミ袋をかかえて捨てに行かなくてはなりません。残しておかなくてはならないものより捨ててしまわなければならないもののほうが多いような気さえます。

40年という歳月が世の中を大きく変えましたが、ワンゲルにとってはどうだったでしょうか？ 様々な人たちがここに集まり、ともに過ごし、そして別れていった。そのともに過ごした4年間は40年前も今も変わらぬ私たちの一つの基盤になっているのではないのでしょうか。田村さんをはじめクラブ発足当時の熱い思いは今でも脈々と受け継がれているに違いありません。こればかりは世の中がどう移り変わろうとも変わることなく未来へ引き渡していきたいものです。

さて、OB会はというところはやっと5歳の誕生日を迎えたところです。OB会としての歴史はまだ始まったばかりと言っていいでしょう。持ち上がっては消え、また持ち上がっては消えたOB会も5年前に堂々オープンし、途中で消滅するどころか数々の行事、会報、現役への支援、山小屋の充実と多岐にわたって活動が繰り広げられてきたと思います。それまで貯めてきたエネルギーが臨界点を越えてひとつ上の励起状態に遷移したようです。これもOBの皆さん一人一人の情熱、現役諸君の行動力、OB

会長の大島さん、事務局の舟田さんをはじめとするスタッフの皆さん、前田顧問らの力によるものです。こうして一つの形ができあがったOB会もその維持運営にあたってはいくつかの課題ももちあがっています。OB会は利益追求集団でも、統一された思想集団でもありません。現役の頃を思い出して下さい。お互いを認めた中でそれぞれがそれぞれに言い合い、優しい自然に包まれるようにワンゲルという世界にいたことを・・・。

時は今を遡ること1年、私たち15期は伊吹山の中腹で年に1度の15期会を開いていました。幹事は持ち回りで、原則としては北陸地区とその他の地区とで交互に催すことにしています。そのルールに従って次回、すなわち今年は北陸地区ということになりました。

「来年は金沢でやろう」

「40周年記念の年でもあることだし」

「じゃあ、来年は奥名やれよ」

「ワンゲル40周年と兼ねてやったら！」

「うーん、やろうか」

これまで幹事役をなんとかさせてきたが、ここに来て順番に当たったことが後々OB会長を引き受けることになる道のりの出発点だった。

秋の小屋作業。いまだトイレなんか必要なのだろうかなどと思いながら、いつまでも変わらぬ静かな倉谷の秋に時を忘れる。

年が改まって「あまつぼ」で新年会。前田顧問が大学のホームページに関する委員をしていることを耳にし、OB会のホームページを作することを宣言。

40周年に向けて役員会にも参加。15期会を便乗して行おうというだけの魂胆だったのにいつの間にか役員のような事になってしまった。

長野冬季オリンピック終了直後の野沢温泉でのOBスキー合宿。などと言った具合にどんどんOB会にはまりこんでいった。

40周年記念行事があるていど目鼻がついた

頃、次期役員のことも話題にのぼるようになった。5年間初代の会長として重責を果たした大島さんに引き続いてお願いするのが順当なところ（そんなに年老いたわけでもないの）。ここで要らぬ事を言ってしまったために結局会長を引き受けることになってしまった。

「OB会長・役員は任期が5年もあるので順繰りに次の世代に引き継いでいった方がいいのでは・・・」

以上のようないきさつはありましたが、OB総会でもふれたとおり孤立無援でこの金沢にやってきて、暖かく時には厳しく（厳しい方が多かった）育ててくれたワンゲルにたいして、少しでも借りを返そうと思っていたことも事実です。

これから5年間のテーマは発足時と変えるつもりはありません。さらに実のあるものとし、一人でも多くの人たちが積極的に参加出来るようつとめていきます。

1. 現役の活動に対する支援

特に事故などの非常時に人的にも金銭的にも支えとなれるようにする。その為にはOB会の組織や連絡網をしっかりと作ることが必要です。

2. OB・現役相互の親睦をはかる

これまで行ってきた行事あるいは企画は継続して行う。

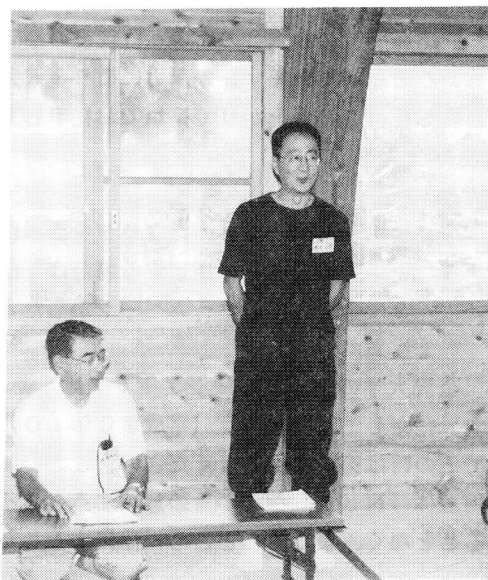
- ・会報「やまざと」の発行
- ・小屋酒場（春・秋）
- ・スキー合宿

現在では山小屋「ベルクハイム」の利用頻度が低く、私たちワンゲルのひとつのよりどころとしてもっと活用したいと思っています。いまはどうか知りませんがかつては部室にも山小屋にも「らくがき帳」がありました。pwへのお誘い、愚痴、怒り・・・思うままに書きつづったあの「らくがき帳」のOB版をホームページにしようと思っ

ています。つまり部誌「Bergheim」は「やまざと」へ、らくがき帳はホームページへ衣替えです。

できればさらにもうちょっと気軽な催し物を開けたらとも思っています。

これからも事務局・幹事・各期連絡委員のかたには何かと時間を割いていただくこともあるかとは思いますが、やればやっただけの充足感を味わえるのも事実です。5年後のOB総会・45周年には今回以上のたくさんの人たちの「ようっ」という声が聞かれるよう皆様のご協力をお願いいたします。



前会長13大島 新会長15奥名

ホームページ開設のご案内

今年の新年会でホームページの開設を宣言し、2月頃から少しずつ体裁を整えてきました。まだまだ内容的には不十分なところが多く、構成や見栄えといった点でも今ひとつとあったところではありますが、これから徐々に育てていくことで尚一層のOB会の活発化にもつながるのではないかと考えています。

このホームページはOB間の情報の交換を最大の目的としています。かつて部室の真ん中のテーブルの上には「らくがき帳」がありました。そこには、とりとめのない話しや愚痴・嘆き・激励、事務的な連絡、パーワンへのお誘い、トレーニングのこと、授業や試験のこと、アルバイトのこと・・・様々な人生模様が繰り広げられていました。そんな「らくがき帳」のOB版を再現しようと思っています。そのために皆さんからのOB会への意見や要望、あるいは近況などのお便りを是非送ってください。さらに飲み会やPW（PWとまではいなくてもお出かけ程度でも）の企画お誘いなどもでてこないかと期待しています。

また、インターネットの通信費の廉価性、迅速性、それに今後ますます普及してくることが予想され、連絡網としても十分利用できるものと考えています。

現在OB会名簿にはメールアドレスの欄を設けてあります。今後メールアドレスを取得された方は、住所変更連絡と同じように同期連絡委員を通じて事務局までお知らせください。

前田顧問（OB総会の席で私は現役の顧問という発言がありましたが、OB会の顧問でもあると思っています）の尽力により金沢大学のホームページからリンクをはることができました。この場をかりて重ねてお礼申し上げます。

OB会ホームページへのたどり方を簡単に説明します。

1. 直接アドレス指定する場合は www.u-page.so-net.ne.jp/pa2/ma-okuna/kuwv/
2. 金沢大学のホームページからたどっていく場合は、以下の通りです

金沢大学のトップページアドレスは www.kanazawa-u.ac.jp で以下の画面が出現します。ただしこれは現時点（平成10年10月）でして、いつ変更されるかわかりませんのでその時は適当に探してください。ここで「Now」のあたりをクリックしてください。何故に「Now」なのかその意味するところはさだかではありません。ここは深く詮索することなく、また他のところに浮気することなく、無条件に「Now」へ進みます。



ツグミ

- 金沢大学総合案内
- 優し物・ニュース

[English Page](#)

- What's New!
- 入学生案内
- キャンパスライフ
- 卒業生のページ

50
1849-1999

創立50周年

- 国際交流情報
- 留学情報
- 附属図書館
- 学部・部局等

- 地域との交流広場
- 金沢大学の構図

ここをクリックする

アパート検索 **Now!** WWW検索



このページは金沢大学「公認ホームページ」専門委員会が作成し、管理しています。【更新日1999/5/11】
お問い合わせのありましたら、E-mail: com@kanazawa-u.ac.jp 又は FAX: 076-234-4010 までご連絡ください。
金沢大学の各種業務に関する総合・ご質問等は、こちらへお問い合わせください。

「Now」をクリックすると以下の画面が現れます。

KANAZAWA UNIVERSITY
information
金沢大学
大学案内 1999
金沢大学学生部
920-1192 金沢市角間町
TEL 076-264-5177~9
平成11年度
入学希望者に関する要項
金沢大学学生部
入試選入学試験係
920-1192 金沢市角間町
TEL 076-264-5177
新しい「金沢大学要項」がで
きました。(平成10年7月発行)
庶務部 庶務課・国際交流課
TEL (076)264-5019
FAX (076)234-4010
general10@kenroku.kanazawa-u.ac.jp
平成10年度
東海北陸地区大学放送公開講座
テレビ講座受講案内
21世紀日本への展望
- 社会・環境・医療 -
平成10年度
東海北陸地区大学放送公開講座
ラジオ講座受講案内
21世紀に向けての法
- 生活に役に立つ法 -
金沢大学教育開放センター

Now!
総合情報処理センター
の風景
(画像をクリックして下
さい。)

ユーザPC室 第一実習室
第三実習室 第四実習室

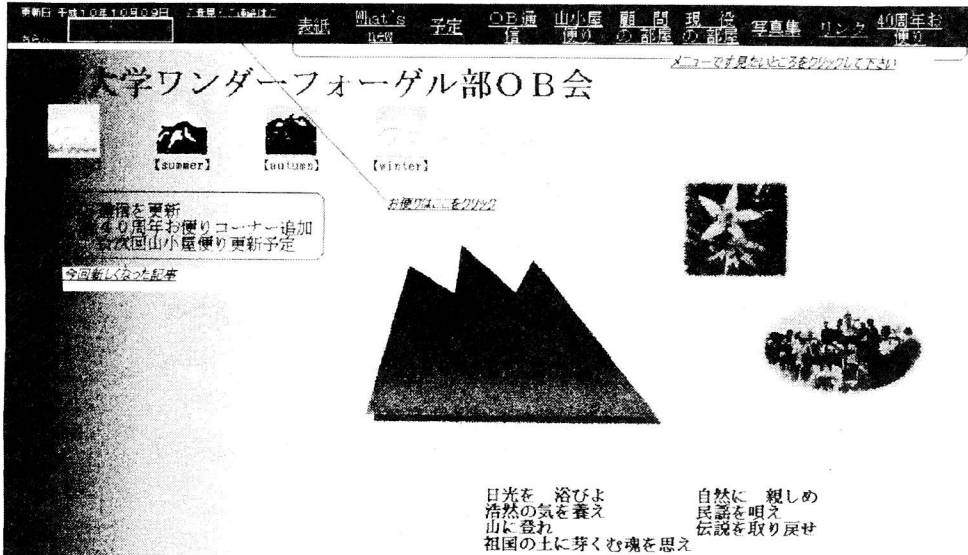
- 学生サークル紹介
- ソフトテニス部
- 水泳部
- 陸上競技部
- 演劇部(ホート部)
- ライフル射撃部
- ワンダーフォーゲル部
- サッカー部
- テニサー部
- フィリハーモニー管弦楽団
- 剣道部
- 鉄道愛好会
- ラジオ・オーデオクラブ

- 大学教育開放センター (公開講座)
- 事務局 (アカデミクス ニュース)
- 文学部 (広報)
- 法学部 (おしらせ) 日本の法律
- 工学部 (おしらせ・案内)
- がん研究所 (What's New?)
- 附属図書館 (掲示板)
- ディフューズ総合センター (掲示板)
- 総合情報処理センター (更新情報)
- 50年史編集室 (ニュースレター)
- 附属幼稚園 (新着情報)
- 附属高等学校 (最近のニュース)

- 大学の顔
- 角間版大学案内
- 大学紹介ビデオ
(城内版)
- 留学生のエッセイ
- 今月号 (第二回)
- 先月号 (第一回)
- 人の顔
- 新入生の顔
- 卒業生の顔
- 金沢大学中央
バス停乗車案内

1999年 5月30日(日)
国際市民シンポジウム

ここで「ワンダーフォーゲル部」のあたりをクリックすると、わがOB会の表紙画面が現れます。



表紙：OB会の表紙です。新しくなった項目や更新予定

What's new：新しい出来事や話題

予定：OB会行事の予定

OB通信：OBの皆さんからのお便りや行事報告

山小屋便り：山小屋「ベルクハイム」の様子や活動状況

顧問の部屋：顧問独自の禁断の部屋です。まだ未公開

現役の部屋：現役サークル活動のページへ link（現在あまり内容がない）

写真集：山や花を中心とした Gallery。写真を送ってください（デジタルで）

リンク：他の大学のワンゲルホームページへ

特集：今回は40周年記念行事へのお便りを載せてあります

*会報10号は従来のスタイルでお届けしますが、今後については未定です。年1回は死守しますが、年1回+@を状況に応じて---ということで。資金難というより、まず原稿の少なさ（あいつぐ督促にも関わらず---身に覚えのある方も多いはず。そして各代から万遍なくの希望も願望のまま）。さらに、引き継げる程度の事務量に落としていきたい為です。

*事務軽減で最有力がインターネット。奥名会長だからインターネットになるのか？インターネットの伏線があって奥名会長になったのか？ともあれ、彼がハイテクOB会をめざして、公私混同の奮戦をしてくれています。今後の5年、そんな試行錯誤をやっていきます。尚、最大のネックと思われた事務局長の方は、とりあえず機器は購入し、やる気満々です。（もちろんまず節税の為。小馬鹿にした野郎共に、突然mailを送り込むのが、ささやかな且つ陰險な夢！）

*OBスキー合宿 2月27、28日 春の小屋酒場 5月第2・3土日のあたり
既参加者には連絡葉書を出します。初参加希望の方は、事務局へお問い合わせ下さるか、ワンゲルホームページをご覧下さい。
部室の戸を開けたら、PWチラシが下がっていて、机の上には落書帳があった---あのシーンを再現させていただきます。
(事務局より)

共催の40周年

事務局長 15期 舟田 節子

「根回しの上手な舟田さん」と役員紹介で紹介してもらいました。まずは讃辞のうちと解釈させていただきます。座右の銘とする言葉の中に（あの…学研の教室に掛けてある日めくりカレンダーが出所です…）

<仕事には、綿密な計画と段取りが必要。

不十分な計画は、人も時間も浪費する>があります。

時間…この不思議なもの。哀しみ苦しみを癒してくれもするけれど、大切にしたいものにも忘却の埃を積もらせていきます。

$0 \times 365 = 0$ しかし、 $1 \times 365 = 365$ これは「学習習慣が大事です」の営業に使う数式です。 $E = mc^2$ よりはるかに生々しい数式。すなわち「やる」 $\times$ 「時間」＝「実績」

無いのが当たり前になっていたKUWVのOB会に根をはやす、今度こそ「忘却の時間」ではなく「実績を重ねていく時間」とする…それが事務局長の信念でした。

しかしながら多忙のOBが、どれだけの時間を割けるか？となるとこれはもう厳しい現実があるわけでして、「仕事」「家庭」「地域住民としての立場」「親戚づきあい」他もろもろのノルマ。 $\times$ 「時間」はあえなく粉碎され、「計画」も「段取り」も、電話一本でパーになるのが常でありました。そんな中で、役員会通信を発行し、役員会を開き、会報を発行し、いくつかの企画を実行してきました。

そして迎えた40周年。前回のように、わざわざ記念事業としての寄付金を募ることもなく年会費の中で諸経費を納めました（参加者は食費実費のみ）し、諸連絡も会報中で行いました。

かつて、記念行事にあたった現役は、OB住所の確認をし、立案し、連絡を出し、それらの費用を参加費に上乗せして参加OBからは高す

ぎると苦情を言われ…。記念行事は余りに現役にも負担多く、楽しめる交流とは言い難いものでした。なぜ記念行事をしなければならないのか？何を目的に開催するのか？「〇周年だから」「慣例だから」以外の答えがなく、せっかくの交流の機会が、貧乏籤を引いたで終わってしまいました。25周年のように、直後にOB会設立運動が提言された年もあります。が、その代が卒業してしまうと沈静してしまいました。

現役が卒業すればOBになる…これは当たり前のことですし、仲間、先輩、後輩との付き合いをかけがえのないものと思うなら、そんなご縁をもたらしてくれたワンゲルに多少なりのサポートを行う…これも当たり前のことだと思います。何も特異なOB会を作ろうと言っているのではない。あって当たり前の自然体のOB会なのです。もちろん世話役は自然体とは構えていませんし、皆さんに会費という協力もお願いしなければなりません。

そんなOB達の集まりのOB会があって、現役とともにワンゲルの創部〇周年を祝おう…これが本来の記念行事と思います。

OB会役員が連絡を行い、主な経費はOB会全体会計から出て、現地での行事運営は組織をもつ現役が行う。一緒に祝う「ワンゲルのお祭」それが〇周年記念行事。

今回、そういった意味での「共催」を初めて行えました。ファイヤーで一つの輪に肩を組み合った時、やはり感激しました。ワンゲルがあってこそ繋がった輪…。いろんなご縁が重なって、そう、何か他にあっても繋がることはなかった…くすしきご縁で今日この地で輪になれたのは、40年前ワンゲルが誕生したから。

ワンゲル創部40周年、万歳！

（尚、私、参加OBの皆さん全てのお顔とお名前を一致させる事ができました。初対面の方でも、所属期と同期他のデータで識別。若手OB

の方は、小屋作業、懇親会で見ていますし、会報や金沢市への作業報告で何度か名前を打つと、誰は何期と覚えてしまいます。

参加者が到着する度、「わぁー元気？」と、それは楽しい思いをしました。時間を山ほど使い、迷惑気な顔の現役と折衝する時には、こっちも気後れしない訳ではなく、若干慣れたかと思うと、また次に交替。砂上の楼閣のような仕事と思わずありませんでした。しかし、その分こんな時には楽しめて、こうやって次々と新

しい人達が入ってくるのが何よりのワングルの魅力とも思います。

5年前、できる限りOBを覚えようと思いました。「あんた誰？」じゃ、事務局は務まらない。将来のOBである現役も、現役で顔の見れるうちに覚えようと思いました。

40周年。全員を「識別」できて、写真配りもそれは楽でした。ニンマリ。やったぜ！

しかし…次の瞬間気付きました。これじゃあ誰も代わりはできない！次は誰に頼めばいいの？)

3田村 38小林
コバヤンお約束の…。

「写って」いたのも、あるとかないとか…。



ハダカおどり考

0期 田村 昭夫

口下手で無芸な私に出来る、最高の自己表現はハダカおどりです。おどりは人の心を酔わせます。そして喜怒哀楽を表現する最適手段です。特に、喜びを表すにはハダカおどりが一番です。

女おどりの場合はさておき、男おどりの時には準備体操（シゴキ）が必要です。下半身の血行を良くする為にです。最近「バイアグラ」と称する薬が出来、便利になりました。

キン大ワングル四十周年記念事業の一環として、ハダカおどりの新流派を起こしてみても如何でしょうか。家元は舟田女史にお願いし、お囃子はワングル社中の皆さんで、四十五周年に学長出席のもとにお披露目するというシナリオはどうでしょう。燃えさかる焚火に、光輝くキン大ワングルの老若男女の群像乱舞を想像すると、下半身が疼きます。

そして、ハダカおどりは、全員参加が原則です。一人で踊ると、次の日の朝、自己嫌悪に落ち込むのが常です。（これは私の長年の経験から云えます。）

今回のように皿を使用するのは邪道です。ハダカおどりは丸出し、スッポンボンが正統であることをお忘れなく。皆様の益々の御研鑽を期待いたします。

評論家の故・扇谷正造は云っています。「人間は、痴気・稚気・知己を持たねばならない」と。痴気、稚気が丸出しの知己達のハダカおどりこそおかしけれ。あなかしこ、あなかしこ。

*元祖ハダカおどり：天の岩屋前での天宇受売命（あめのうずめのみこと）のおどり。高天の原の八百万の神を喜ばせた。（古事記）

OB代表挨拶

0-9期代表 5期 稲葉 正己

OB総会並びに、40周年行事が盛大に開催されたことを、心からお祝い申し上げます。

今春、今後のOB会の運営に関して意見を伺いたく、同期の会員と電話で話す機会を持ちました。表現こそ異なるものの、それぞれの青春の1ページにワングルがあり、OB会から発信される情報でそのページが現在の自分に繋がっていることを確認できることに感謝している会員がほとんどでした。

申し上げるまでもないことですが、40年の歴史の中で、5年間間断なく活動が継続したのは今回が初めてです。

その陰には、大島会長、舟田事務局長をはじめとする前役員の献身的な努力があったわけであり、ここにあらためてお礼を申し上げる次第です。と同時に我々会員はこの事を認識し、役員の負担を少しでも減らすことを心がけ、次の総会と記念行事につなげなければなりません。

新役員の皆さん、大変ご苦勞をおかけすることになるかと思いますが、よろしく願い致します。

本日はおめでとうございます。



5 稲葉

18 津島

津島jrs

松林jrs

10-19期代表 15期 間所 新一

(音響設備悪く、かなり聞こえにくかった挨拶とは別に)

久々に昔に返りました

OB会40周年記念行事

「やまざと」や時折の小屋酒場の便りに刺激され、9月12日、新幹線を乗り継ぎ、懐かしい金沢の町にやってきた。

駅から武蔵ヶ辻、香林坊、かつては名鉄ビルだけがよっきり建っていたのが、今では高層ビルが珍しくなくなっている。同期の松林君が勤める北国新聞社のビルもいふう堂々とした新社屋に変身している。大和デパートの所で、よくコンパをした魚半を思い出しながら、中央公園前から錦町行きバスに乗り。偶然にも、ご家族とともに同じOB会参加の田村大先輩にお会いする。

工学部前から、同期の坂尻君の車に乗ってもらい、一大住宅地に変貌した田上のごみ焼却場跡地を越え、医王山へ。医王の里には既に多くの現役、OBが集まっておられた。13期の大島さん、穂積さんなど、お世話になった先輩をはじめ、懐かしい同期の顔、名前を言われてもなかなか思い出せない人、初めて見る現役など。

17時からOB会総会。大島会長、長い間ご苦勞様でした。新入りの頃の主将で工学部の先輩。お金がない時、工学部の学食でうどんをおごってもらい、帰りのバス賃まで頂いたこと、忘れていません。次期役員は、奥名会長、上馬副会長、舟田事務局長で決まり。うん…これってみんな15期。というわけで、華の15期の思い出を少々。

華の15期は昭和45年4月入学。当時のワングル部室はもちろん金沢城址の中。

最初50名近くいた同期は、高三郎の新トレで、倉谷河原の石をキスリングに一生懸命詰めてくれる先輩の「優しさ」で一気に減ったものの、何とか20名が無事卒業。最近では年1回、欠か

さず家族ぐるみの同期会を実施中。

結束の方さはお墨付き(?)なので、OB会もきょうまくいくでしょう。

我々がいた昭和40年代後半のワンゲルというと、まず医王山の新歓に始まり、高三郎の新トレ、白山での合宿トレ、アルプスでの夏山合宿、秋のパーワン、加越国境での冬合宿、医王山での新二トレ、そして白山での春山合宿まで、おおよそ年間50-60日は山に入っていたように思う。当時の白山はまだ四塚辺りでもテントを張ることができ、弥陀ヶ原も棚など無く、どこでも自由に歩ける、そんな時代であった。

一年の締め括りの春山合宿は、青柳新道を使つての白山御前峰アタック。当時は春山に参加できるのは男性部員だけ、それが当たり前と考えられる時代であった。いろんな議論をした後、我々15期の時から春山に女性も参加できるようになった。15期の紅一点舟田さん(事務局長)の春山に対する熱い情熱が当時の執行部を動かした結果であった。

などと思い出しているうちに、総会も終了。いよいよお楽しみのキャンプファイヤーとなった。医王山の夜風を肌を感じながら、現役諸君の元気一杯のスタンツに圧倒され、田村大先輩の踊りに感心しつつ、久し振りに山の歌をカ一杯歌った。ファイヤーの後、昔のワンゲルと変わらず、車座になったの夜おしの酒盛り。

あっという間に過ぎてしまったけれど、本当に楽しい二日間でした。OB会役員、現役の方々には本当にお世話になりました。ありがとうございました。



9月12日に医王の里で開催された40周年記念行事で、10期毎の代表の一人としてしゃべることになった。

しかし、屋外の広い輪の中で、拡声器の音も通りにくい状態。先に話された二人の先輩の状況を見るにつけ、これはまともに話をしていたのではダメだなと思い、

「みんなー。山に登っているかー」

と、精一杯の声で問いかけた。

が、反応は今ひとつ。とにかく、自分が今も山に登り続けていることと、日本百名山と言われる山々が、開発によって登ることのできない山(もちろん、車で登ることはできるが)に成り下がっていることをわめき散らして、自分の席に戻ったのだった。

山から離れてしまっている人の方が多いであろう中で、自分の話が伝わったのだろうか? いや、そんなややこしいことは考えずにおこう。今日は久しぶりの顔が集まったのだ。

世代別にグループが出来ていく中で、ワンゲル2世代の加藤親子、田村さんと〇〇君(すみません、お名前を失念してしまいました)の露出狂?踊りの競演が、印象的であった。

それから、現役生の中に公認のカップルがいて、二人の態度があけっぴろげなのには圧倒されてしまった。世代のギャップと言えばそれまでだが、我々の時代は、良く言えば公私をわきまえて。要するに、裏でこそそととやっていたものだ。同期の妻を持つ僕としては、彼等の行く末の幸せを願わずにはいられない。

とにもかくにも、山を続けていようがいまいが、懐かしい顔を見て、タイムトラベルをしたような束の間の一夜だった。また5年後にお会いしましょう。

ダ スレイドウシー フストゥリーチ

左15間所 右20深田

40周年記念行事に 参加して

30-39期代表 36期 石川 明弘

先日の金曜日、阪神×巨人戦を甲子園で見て参りました。

実は私、甲子園で阪神戦を見るのはかなり久しぶりで、バースがいた頃なのでかなり昔です。金沢市民球場で年に数回行われる阪神戦はかなり見っていますが、やはり球場の雰囲気は、「甲子園」独特のものがあっていいもんです。

とはいっても、伝統の阪神×巨人戦のチケットが当日買えるくらいの空き様で、熱気ムンムンのライトスタンドではなかったのが残念です。「行ったからには、応援するぞっ!」と社内の同僚とメガホンを2つずつ購入し、ビールを飲んでスタンバイ完了。静かに腰を落ち着け、観戦する「おじさん社員」をよそに、かなり派手にはじけてしまいました。

ゲーム内容はかなりスリリングな展開で、シーソーゲームの末、阪神が勝つという結果で、六甲おろしの大合唱が、ゲーム終了後響き渡りました。

夕食のカレーの席で、34期の松浦先輩、「みんなおしゃれやな。湘南のサーファーといっても通用するぞ。」

確かに現役の皆さん、おしゃれな格好で、おしゃれな髪型で、我々の現役の頃とは少々匂いが違う。

「確かに。われわれ(30期代)の通常のノリで走ったら、やばいかも。」

我々の前に座った二人の現役の人々は真っ黒で、聞けば能登半島一周サイクリングで日焼けしたそうで、かなりいい色をしていらっしやる。話は進んで、今年の夏合宿の話や、PWの話で結構盛り上がり、我々の結論としては、「でも、やってることは一緒やんけ。」
「このあたりから、我々のペースで持っていても通用する自信が。」



36石川 34松浦

そして夕食も終わって懇親会。

「松浦さん。俺、挨拶なんですよ。手伝って下さい。」

「あ、まかせとけ。」

4人のOBの挨拶の最後が私で、前の3人の方が声が全く聞こえず、現役の反応も悪い。皆をあっといわせる「ネタ」もなく、結局は一気でお酒を飲むことに。

さて、40周年記念行事では、30-39期の代表として以下のように挨拶させていただきました。文章化すると26才の挨拶とは思えん内容ですが...

「現役のみなさん、カレライスありがとうございます。」

5年前にも同じく挨拶をさせていただきましたが、覚えておられますか?今日は飲みましょう!勢いをつけるため、私、コップ一杯のお酒を一気に空けさせていただきます。」

そもそこのOB会が発足したのは、36期の蒲原良太郎君が、剣岳で滑落した事件(剣岳事故報告書参照)が直接の引金で、現役だけでは到底対処できない事故のバックアップが主な目的で発足しました(と、私は認識しています)。しかしながら、毎年我々33期から37期までのOBは8月末に剣岳で追悼山行に集まっているため、この40周年行事にほとんど出席しないという皮肉な結果に結びついています。

それまで5年毎の記念山行はOB会とは全く別のカテゴリで行われてきており(OB会という組織なし)、30周年記念山行までは白山で、現役によるOBご招待の記念山行が行われたようです。35周年記念行事で初めて、OB会と現役が協力した形で記念山行が計画されましたが、「悪天候のため、山行は中止」という形に終わ

っています。それから5年後の今回、見事にOBと現役がリンクした形で「40周年記念行事」が実行されたと私は認識しています。

これからOBの数は減ることなく増え続け、5年毎の記念山行を実行するのも、現役だけでは負担が大きすぎるでしょうし、あってはならないことですが、事故はいずれ今後の山行で起こってくるでしょう。

現在のこの体制ならば、学生だけでは到底対処できない事故にも対応できるでしょうし、金銭面でも充分なバックアップができるでしょう。こういったことは、社会人として2年過ぎ、振り返って改めて思うことであり、現役の頃、その有り難さを十分認識できないでいたことは言うまでもありません。

懇親会も終わって、0期田村さんを囲んでの質問大会。「しらふ」でこんな事、とても言えません…というような内容でしたが、当の本人も気にしていなかったようですし（本当はどんなのだろう?）、まあ、お祭ということで。

「5年前、福島から歩いてくるっておっしゃってましたが、どうなったんですか？」

「今年は家族も一緒だしな。」

「なんで0期なんですか？」

「ワングルが発足した頃の人々の代を遡っていくと、3期、2期、1期、0期な訳で…」

「懇親会ではくもの>が丸見えでしたが、よろしいんですか？」

「…。」

「今年は家族の方が来られてますが、いつもの調子で突っ走って大丈夫なのですか？」

「当然。」

「やまざとで、ドイツ語は読めません。」

「ハハハ。」

みんな、この時点で結構酔ってました。ちなみに0期田村さんの別れの挨拶は

「アウフ、ウィーダセン。」

さすがは我等の田村さん。

バンガローでラストスパート。ある酒はほとんど飲んで、現役の方、OBの方、皆さんゲロゲロ吐いて終了。体に悪いのは分かっていますが、なぜか皆さん飲んでしまわれるようで。

翌日は山行に参加せず、眠たい目をこすりながら北陸自動車道を走ってました。45周年では皆さんどうなってるのでしょうか。

3期 鈴木 兵一

楽しい思い出ありがとうございます。写真いつ撮ったのか気付かないものが多く、驚いています。それにしても頭がうすくなったものです。でもファイヤーの時は青年に戻りました。とりとめない原稿ですが送ります。よろしくお願ひします。



3北 3鈴木 3西尾

「あんた3期じゃないの?」「0期なの」田村

この度は40周年山行に参加させていただき、ありがとうございます。思えば医王山は私にとって、懐かしい第二の故郷の山です。

この山の思い出はたくさんありますが、初めて訪ねた頃のことを思い出して書いてみます。

医王山と湯原さんのこと

小松空港を出て車窓に広がる景色、そぞろ歩きの街並み。そして医王山の森と林。これらがまるで昨日までずっとここにいたかのように、全く違和感のないことに驚きました。それらの空間に身を置くと安らぎを感じるのは、何故なのだろうか。

42年前の1年生の春、初めて医王山を訪れました。俵の部落でバスを下り、見上峠まで歩きました。アプローチの萌える新緑の輝きを今も覚えています。

峠の小屋には気難しそうな、すごく顔の黒い人がいました。それが湯原さんでした。

医王山の話を始めると目が輝き、次々と世界一のこの山の自慢話が飛び出しました。この山には汚れない森林がある。かけがえのない美しい四季がある。厳しく神聖な岩がある。滝が落ちる池と川がある。ここには山の魅力のエッセンスが全部詰まっている。少年のような純真さで話す湯原さんの話に、夜の更けるのを忘れしました。

以来私はこの山に魅かれ、春夏秋冬そして冬もここを訪れました。ある年の山日記を見ると、1年を通じて60日もやってきたことがありました。冬は小屋に泊まり、薪割り、保存食の整理、雪かたづけ等を手伝い、無料で泊めてもらい、春や秋には床下に泊めて貰ったものです。

冬、湯原さんと山頂から小屋まで直滑降で滑り下りたことがありました。湯原さんのスキーは戦争で痛めた足を調整するため特製のもので、片方が高くなっていました。これは勝てると思い、スタートしたのですが、アッというまに姿が見えなくなったのには驚きました。

40年を経た今、記念碑の前に立つと、卒業が決まり金沢を離れる前の2月、涙ぐんだ笑顔で渡してくれた、手作りのワカンの感触が蘇ります。山の環境が変わり、訪れる人は変わっても、山の持つ独特の＜気＞は変わらない筈です。湯原さんは、変わらないこの＜気＞の中で、愛したこの山を永遠に守り続けるものと思います。

さて私の近況ですが、昨年7月、憧れのマッターホルントレッキングの夢が、40年ぶりに叶いました。ツェルマットに4日滞在し、快晴に恵まれいろいろな方向から山を見るため、2500mのお花畑を歩き回りました。

3期 西尾 皓史

昭和33年(1958年)の、或るうららかな春の日の午後、田村、鈴木という二人の会津若松出身の青年の呼び掛けで、教養部の尾山食堂二階に集まった。これが、金沢大学ワンダーフォーゲルクラブの誕生であった。

それから40年を経過した今、クラブ発足当時の活動の拠点であった医王山で、40周年記念事業が催され、大勢のOB、現役が一同に集い、しばし、賑やかで楽しいひとときを過ごすことが出来た。大きな感激であり、喜びであった。(大島さん、舟田さん、椿川さん、本当にありがとう。)

ワンゲルの生みの親である、田村、鈴木の両兄とも、ご老体であるにも関わらず、現役時代の情熱をそのまま持ち続けており、全く変わっていないし(進歩していない?)、これに続くOB諸氏も皆若い。3期から39期のいろいろな年代のOB諸君と話す機会があったが、年代の相違を全く感じる事がなかった事が嬉しい。

13日、記念山行が終わって、食事して解散後、鈴木、北、西尾の3人は、発足当時の思い出のワンデリングコースである能登半島へと足を向けた。一緒に行く予定であった田村兄は、記念

山行のAコースをBコースに突然変更してしまったので我々と別行動になり、何処へ行きついたか分からない。(予定通りに行動しないのが田村兄)

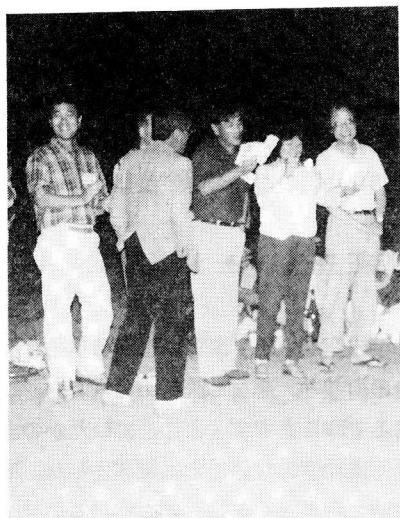
昭和33年6月(だったと思うが)、能登半島一周ワンデリングをやり、曾々木海岸、狼煙灯台、九十九湾で TENT を張って、満天の星を眺めながら、歌い、そして吠えた事が、昨日の出来事のように懐かしく思い出される。40年後の今再び、能登の地に足をつけて、能登の澄んだ空気を体一杯に吸い込みたい、そして40年前の感激を今一度味わいたいと言う気持ちで能登の地を訪れたのだから、能登一周ワンデリングするには残念ながら時間がない。やむなく、北兄の高級車で、能登ドライブという事になってしまった。

夜は和倉温泉で、前日からの汗をサッパリと流し、能登の「宗玄」と美味しい海の幸に舌鼓をうち、充実感、満足感のなかで、眠りにつきました。

14日朝、能登島に渡り、水族館でクジラ、イルカの見事な芸に感動し、帰りには13期の柴田さんに紹介してもらった Petit Hotel "WIND" を訪れ、コーヒーを頂いて来ました。"WIND" は17期の小島幸子さん(旧姓 野村さん)のお姉さんが経営しているホテルですし、経営者も大変素敵で、暫し話に夢中になって時を忘れました。OBの諸君も、機会があれば、是非利用されたら如何でしょうか。(場所: 能登島水族館近く、バス停「曲」すぐ前、☎0767-84-1758)

「新しく物事を作るより、出来上がった物を維持管理することの方が難しい」と言われます。

大島さんはじめ前役員の方には心から感謝するとともに、新会長の奥名さんには、今後の頑張りを期待しております。また、舟田さんには引き続きOB会事務局長として、益々手腕を振るって、皆さんを強引に引っ張っていただきと思っています。今後ともよろしくお願いします。



9 保田 8 小谷 5 稲葉 7 村田 6 池田
9 白井

6 期 池田 進

前略

さっそくに写真を送って下さって有り難うございます。並々ならぬ事務能力を感じさせます。多分貴女に手を抜かれたのでは、たちまちOB会は崩壊するかもしれませんね。

ほんの一部が集まって、しかも現役の手を借りて、今の時代そのものです。現役時代、下級生がほんの2、3年しか違わない上級生を年寄り扱いしたことを思えば、今や本物の年寄りがぞろぞろ…何やら恐ろしいような気がします。同輩同士は会えばたちまち昔に戻れるのに、そこから時系列でぞろぞろ連なっているのでは戻ろうにも戻れず。

医王山は懐かしく、といっても白禿周辺にほんのわずかの記憶がある程度でしたが。

ともあれ、これからの5年間またお世話になるようでどうぞよろしく。「やまざと」で、貴女と田村さんの意気軒昂を読むのが一番の楽しみか。

草々

何もせずに、唯楽しませていただきました。
お世話下さった方々にお礼申し上げます。

云十年振りに鷲岩経由で白禿にも登ることが
できました。学生時代、真夜中に鷲岩を往復し
たことが、まるで昨日のように思い出されまし
た。怖がる私達を引っ張って行った先輩も、今
は故人となり、まさに歳月は「光陰矢の如く」
過ぎて行きます。

大きな悲しみはいつしか忘却の彼方に遠ざか
り、小さな喜びはいつまでも心の中に暖かな灯
を灯し続けてくれると、詩人の田村隆一が述べて
いました。40周年の集い、この小さな集い、
でも楽しかった一時。きっといつまでも私達の
心の中に小さな灯を灯し続け、短かった青春の
一コマを忘れさせてはくれないでしょう。

この次は、山に登ることを忘れてしまった方
々にも集えるような会であつたら良いのと思
います。青春の一時期を共有したかつての仲間
が一人でも多く、この会に出席されることを願
って止みません。

拝復 もうすっかり秋ですね。

40周年記念事業ありがとうございました。準備
をすすめていただいた事務局の皆さん、そして
当日お世話をおかけした現役の皆さん、本当に
ありがとうございました。

私の現役時代、ベルクハイム建設とあいまっ
て活動の中心が倉谷に移ったとはいえ、やはり
医王山はホームグラウンドですね。

往時、雲の上に鎮座しました池田先輩にも
お会い出来、懐かしい一時を過ごさせていた
きました。

OB会の運営大変だとは思いますが、どんな形
でもかまいません。存続さえしていただければ
との思いを新たにしました次第です。

大出君の訃報に戸惑いを覚えています。謹ん
でご冥福をお祈り申し上げます。



11井上12大出11小山11森川 11青柳11加藤

このうち締切までに参加申し込みのあったのは青柳さんのみです。
(あとで喜ばせるおつもりだったんですね、森川先輩！)